平成 21 年 3 月 29 日

第 8 回検討会「今年の災害に係るボランティア活動」

を踏まえての論点整理

【災害ボランティアセンター】

- 災害ボランティアセンター運営の担い手の課題（単一団体が設置・運営主体となった場合、他の主体との関係性や平素の活動内容など特性（強み・弱み）がセンターの活動に反映されてしまう。
- 災害の種類、被災状況に応じた災害ボランティアセンターの運営、活動内容等に関する検討、想定、準備が必要
- （内水氾濫など）災害、地域それぞれの種類、特性、状況を踏まえたニーズ把握の重要性

【災害ボランティアセンターを設置せずに行う被災地支援活動】

- 「災害ボランティアセンターを設置しない」と「ボランティアによる被災地支援活動が行われない」とことや「行ってはいけない」ことが同値でないことが理解されることの必要性
- 災害ボランティアセンターを「設置しない」場合、「被災地支援を行わない」との誤解が生じる可能性があるため、説明の工夫が必要
- 「災害ボランティアセンターを設置」に関し、手段と目的の倒錯が発生している面がある
- 災害ボランティアセンターを設置しない場合、外部支援のポテンシャルが十全に発揮でされない可能性がある
- 災害ボランティアセンターを設置しない場合、外部からの支援の受け入れに関し工夫が必要

【ボランティア活動の質の向上】

- ボランティア活動（センターの活動、コーディネーターの活動）のルール作り、マニュアル作り、形式づくりから質の向上への取組の転換
- ルール等の本質を踏まえた柔軟なボランティア活動（センター運営、コーディネーターの活動）の必要性
- ボランティア活動（センターの活動、コーディネーターの活動）のポテンシャルをさらに引き出すための一層の工夫の必要性
- 過去に一旦、安全性などの観点からボランティア活動の範囲として適当でないとの共通認識が形成された生業支援等の活動に関する再検討
- ボランティア活動に関する課題解決の仕組みが必要
- （内水氾濫など）地域内で（戸別に）被災程度の異なる災害においては、いわゆる作業ボランティアを超えたスキルが必要（お声掛の仕方、丁寧に聞いていく・まず傾聴する等の面において）

【災害ボランティアコーディネーター】

- 引き続き災害ボランティアコーディネーターの発掘・養成が必要
- 災害ボランティアコーディネーターの一層の質的向上が必要（被災地支援活動経験の蓄積、寄り添いのトレーニング）
- マネジメントができる災害ボランティアコーディネーターの必要性
- 協働や連携の相手方である企業や地域の側にも災害ボランティアコーディネーターの素養を有する者が必要